

第1号議案

一般社団法人全麺協東日本支部事業報告書（案）

平成28年4月1日から平成29年3月31日まで

1 第9回通常総会の開催

日時・会場 4月28日（木） 13:30～ 麺業会館

内 容 ・平成27年度事業報告
・平成27年度収支報告・監査報告
・支部役員改選
・東日本支部規約一部改正
・平成28年度事業計画
・平成28年度収支予算

2 第8回全麺協東日本支部会員対抗そば打ち選手権大会兼第3回全麺協4支部対抗選手権大会予選会の開催

開催日 平成29年1月22日（日）

会場 東京都板橋区立志村コミュニティセンター ホール

主管 鵜の一門会

参加チーム 支部正会員 1チーム（30人）

競技種目：二八そば（1.0k）、10割そば（1.5k）、更科そば（二八の1.0k）

別添1 報告書参照

3 段位認定地方審査員技術研修会の開催

段位認定事業部と調整し、対象者が参加しやすい時期と会場を設定することとしたい。

開催日 平成29年1月21日（土）

会場 東京都板橋区立志村コミュニティセンター ホール

内容 講義（審査要領、審査員心得）等

別添2 報告書参照

4 支部会員交流・意見交換会

第1回ふくしまそば交流会 in しんち

開催日 平成29年3月12日～13日

会場 新地町農村環境改善センター

別添3 報告書参照

5 段位認定審査会への木鉢・ふるいの貸与

支部内で開催される段位認定大会が、公平な審査が行われるよう、東日本支部保有の木鉢・ふるいを貸与する。

6 支部内で開催される全麺協直轄事業への協力

平成28年度 四段位技能審査東京大会への協力

江戸流手打ち蕎麦鵜の会、江戸流手打ち蕎麦二八の会、江戸流手打ち蕎麦青山学

舎、江戸流手打ち蕎麦鶉蕎の会、江戸流手打ち蕎麦鶉合之衆、

7 その他

支部長、副支部長会議の開催

第1回 平成28年6月20日

会場 支部事務所

議題 第1回本部支部連絡会議に向けての勉強会

第2回 平成28年10月7日

会場 支部事務所

議題 第2回本部支部連絡会議の結果

組織・役員選出方法検討委員会に向けての検討

・役員会・会員とのきめ細かい情報交換

インターネットメールを活用して、きめ細かい役員会の開催や会員への情報提供を行う。

・全麺協ホームページへの情報掲載

全麺協ホームページに支部のページが設置され次第積極的に活用し、支部年間行事予定、地方審査員審査技術県研修会、第8回支部会員対抗大会の報告を掲載した。

別添 1

第 8 回東日本支部会員対抗戦選手権大会 兼第 3 回全麺協四支部会員対抗選手権大会出場予選会開催報告)

この大会も 8 回目となりました。今回は江戸流手打ち蕎麦二・八の会が主管（鶉の一門会が協力）となり、東京都板橋区立志村コミュニティセンターで和やか中にも熱のこもった競技会が開催されました。

結果は以下のとおりで、3 位までの 3 チームが 3 月 5 日に北海道苫小牧市で開催される「第 3 回全麺協四支部会員対抗選手権大会」への出場権を獲得しました。

苫小牧大会では、杉戸麺打愛好会小川道場が準優勝と健闘しました。

- 1 開催日 平成 29 年 1 月 22 日（日）
 - 2 会 場 板橋区立志村コミュニティセンター
 - 3 主 管 江戸流手打ち蕎麦二・八の会（鶉の一門会が協力）
 - 4 出場チーム（10 チーム）
いばらき蕎麦の会、江戸流手打ちそば 二・八の会、久喜そば倶楽部、群馬奥利根連合そば会、彩蕎一門会、さいたま蕎麦打ち倶楽部、杉戸麺打愛好会小川道場 A・B、栃木のうまいそばを食べる会、ふるさと寒河江そば工房
- 入 賞
優 勝 さいたま蕎麦打ち倶楽部
準優勝 杉戸麺打愛好会小川道場 A
第 3 位 彩蕎一門会
部門賞 二八の部 杉戸麺打愛好会小川道場 A（渡部 千代子）
生粉の部 さいたま蕎麦打ち倶楽部（坂川 隆人）
さらしなの部 彩蕎一門会（高橋 光一）



生粉の部のの会場風景

四支部対抗苫小牧大会の結果

優勝 江別手打ち蕎麦愛好会（北海道）
準優勝 杉戸麺打愛好会小川道場（埼玉）
第 3 位 道南ブロックそば推進協議会（北海道）

二八の部 植田塾そば打ち倶楽部（大阪） 渡部結花
さらしな 江別手打ち蕎麦愛好会 小島裕樹
生粉 江別手打ち蕎麦愛好会 長谷川 勉

別添 2

平成 28 年度東日本支部「地方審査員審査技術研修会」の開催報告

- 1 日 時 平成 29 年 1 月 21 日（土）10：00～16：00
- 2 会 場 東京都板橋区立志村コミュニティセンター
- 3 受講者数 127 名
- 4 内 容 ① 講義 段位認定事業部長 加藤 憲
一般社団法人全麵協の会員制度、審査員の心構え等を映像を使用して説明
段位認定普及部会長 落合輝美
主に審査技術に関する説明

② 模擬審査

受講者数が多いことから受講者を 12 班に分け、会場内に打ち台 12 台、12 人の試技者に対して模擬審査を実施した。

班長に全国審査員及び地方審査員の内五段位認定者を班長として各受講生の審査結果をデスクッションをし、その結果を班長が順次全員に報告をし、質疑応答の上、加藤部長と落合部会長からとりまとめの評価をいただいた。

受講者からは「審査員の見方によって判断が分かれることがよくわかり、受験者のために慎重な審査が求められることを理解し審査技術の向上に努めなければならないことを実感した。」との感想をいただいた。



午前の部の加藤部長の講義を受ける受講者



午後の模擬審査会場では、12人の試技者を各班が取り囲んで、受講者は真剣にメモを取っている。

総括

地方審査員審査技術研修会は、昨年度開催できなかったこともあり、過去最高の受講生数となった。

今までは、模擬審査も試技者は2～3人であったが、なるべく、本審査に近い状況で実施したいことから、段位認定事業部と相談しながら今回の開催内容となった。

したがって、過去の研修会に比しても講義、模擬審査とも時間に余裕をとったこともあり、受講生からは「講義、模擬審査とも中身の濃い研修会であった。」との好評を得ることができた。

しかしながら、実施方法等について下記の課題も顕在化しており、今後、この研修会が、多くの審査員が参加でき、実り多い内容とすることを段位認定事業部との連携により実現していかなければならないと感じている。

- 1 多くの審査員が参加できること。
年度に1回、1会場ではその日程に合わせられない審査員が生じてしまう。
さらに、会場によっては、遠方で宿泊を余儀なくする方もあって、負担が大きい。
- 2 100人を超える研修会は、開催できる会場に限りがある。
単に講義だけならホール等で開催すればよいが、実技の伴う研修は相当規模の会場と道具が必要であり、会場設営、運営、経費の面で負担が大きい。
特に、東日本支部は4支部で最も多い180人を超える審査員数であり、会場設営に限界が出てきている。

今回は、江戸流手打ち蕎麦 二・八の会が中心になって会場設営から模擬審査の試技者の確保まで協力していただき円滑な開催ができたことに感謝申し上げ報告とさせていただきます。

一般社団法人全麺協 東日本支部長 阿部成男

別添 3

第 1 回ふくしまそば交流会 in しんち ～福島県最北端の地から始まる新たな蕎麦伝説へ 開催報告書

1 開催の趣旨

- ・東日本支部会員交流会として開催する。
- ・東日本大震災 6 年経過の節目に福島県浜通り地域に新たなそば文化を根付かせていくことによる地域の活性化を促進する。

※ 新地町は東日本大震災の地震と津波で死者 116 名、住宅、建物損壊 577 戸と大きな被害を蒙っており、現在も復興途上です。

2 主 催 一般社団法人全麵協東日本支部

うつくしま蕎麦王国協議会、新地町

3 後 援 福島県、相馬広域市町村圏組合、一般社団法人全麵協

4 主 管 そば交流実行委員会（新地町そば生産組合、あぶくま高原そば振興協議会）

5 開催日 平成 29 年 3 月 12 日（日）～3 月 13 日（月）

6 会 場 新地町農村環境改善センター

福島県相馬郡新地町谷地小屋樋掛田 40-1

3 月 12 日（日）

第1部 そばによる地域の活性化講演会

主に新地町の住民を対象に唐橋副理事長と野上副支部長が講演を行った。



「福島県内のそばの取り組みと世界の蕎麦事情」

講師 一般社団法人全麵協 副理事長 唐橋 宏

「そばによる地域活性化の総合戦略」

講師 一般社団法人全麵協東日本支部 副支部長 野上公雄

新地町の住民 100 人が真剣に耳を傾けていました。

第2部 そば打ち体験講習会

今後、新地町を中心に、そばによる地域活性化を図る皆さんに、そば打ちを体験していただきました。講師は参加支部会員です。



新地町の皆さんは、ほとんどそば打ちをしたことがない方々です。会場に、麺打ち台を16台設置し、受講者24人、事前に講師を希望されていた会員32人で、1台に2人の講師が付きました。唐橋副理事長も講師を務め、会場は皆さんの熱気に包まれていました。

懇親交流会

そば打ち体験終了後、町内の鹿狼山にある「鹿狼の湯」で懇親交流会が開催されました。支部会員70人、地元住民参加者34人が和やかに懇親を深めたものです。



懇親会は、このそば交流会実行委員会のそば普及団体「根っこの会」会長斉藤賢一氏のご挨拶に始まり、福島県相馬地方の民謡「相馬流れ山」全国大会優勝者渡部洋子さんが相馬地方に伝わる民謡を披露いただけたなど、参加者は和やかに懇親を深めました。

3月13日(土)

第1部 支部会員意見交換会

一昨年度に全麺協基盤強化検討で、会員との意見交換を行いました。正式に意見交換会として実施したのはこれが初めてです。

事前には特にテーマを定めたわけではありませんが、現状の課題として下記の3点を中心に意見交換しました。

- 1 組織・役員選出方法等検討委員会の検討結果
- 2 全国会員交流会とそば大学講座
- 3 Zen 麺ライセンス制度の運用



1については、下記の本部役員委員と支部代表委員との意見調整ができず、定款の定数(現15名以内)を改正する案を提案することとなっていることについて。

- ・本部検討委員側 現状の理事会選出理事10名を確保したい。
- ・支部代表委員側 本来、理事は会員の代表として全て支部から選出すべきであるが、急激な移行での混乱も避けるとして、現在各支部1名を各支部2名に増員すべき。

支部選出4名から8名に増加すると定数15人中現在の理事会推薦理事10人が推薦できないことになる。

参加者からの主な意見

- * 社団法人である全麺協として、社員の代表となる役員は、各支部から透明性のある選出方法で選出されるべきである。
- * 検討委員会の構成に問題がある。現役員が検討しても斬新的な改革案は出てこないのが常である。別途、会員代表の検討委員会を設置すべきである。

2について

全国会員交流大会は各支部持ち回りのそば大学講座が中断になって、28年2月に会員交流大会としていわき市で開催され、本年2月には三田市で開催された。

参加者の主な意見

○全国交流会について

- * 義務的な事業ではない上に、参加費が高額で遠距離だと費用負担が多くて参加できない。
 - * 時期的に2月は参加しづらい。(冬場は北国には負担か)
 - * 2回ともウィークディの設定で、職を持っている者は参加困難である。
- そば大学講座について
- * 規模は小さくてもよいから、地域性を重視したそば大学講座を支部持ち回りでやってほしい。

3について

参加者の意見

- * 四段・五段の書類審査の対象になって、急に単位欲しさにイベント参加するものが出てきたが、目的が単位だけなので、本来のマイスター制度である「そば打ち活動に賛同して、見返りを求めない活動」の理念が損なわれている傾向が出てきた。
- * 地方の団体では全麵協の事業に参加するのは経費や時間の制約から無理が多いので、単位数が少なくとも考慮されるべきだ。
- * 単位制度を段位の書類審査に活用するのは賛成だ。したがって、300単位以上とかは書類審査合格とかにしてほしい。

第2部 会員そば打ち技術交流会

段位認定に限らず、広くそば打ち技術の交流を図るため開催した。

今回は、新地町産玄そばの粗挽き生粉打ちで技術交流し、成果品は相馬市老人福祉施設「相馬杜の都」、及び新地町ディーサービス施設「自由クラブ」、「こもれび」他の施設に寄付をしました。

そば打ち参加者数 35人



会場は、多くの参加者が自由にそば打ちを楽しみ、技術交流が図られた。



磐梯そば道場の長谷川さんも得意の「隅切りそば」を披露した。

まとめ

今回の支部会員交流会は、開催要項の配布が開催日1月前、さらに、日・月曜日という期日設定で、多くの参加者数が見込めないのではないかと危惧した。

しかしながら、地元福島に山形、宮城の東北を中心に、栃木、群馬、茨城、埼玉、千葉の広域から多くの参加者が新地町に集い、技術、知識の交流を図り、懇親を深めたことは大きな成果となった。

今回は、菅野副支部長の地元ということもあって、うつくしま蕎麦王国協議会が全面支援、福島県と新地町が後援し、震災復興にそばの力を活用させたいという地元の意欲を支部会員が支援したこと。地元の皆さんへのそばによる地域活性化について講演、そば打ち指導など地元住民と一体となって開催したことの大きな意義が今後の支部事業推進の指針となり、全麵協が発展していく大きな力になると思います。